# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　沼　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## 1. 調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語、数学、理科）

| 教科に関する調査（国語、数学、理科） |
| --- |
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵ 生徒質問紙調査

| 生徒質問紙調査 |
| --- |
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## 3. 教科に関する調査結果の概要

### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 数学 | | 理科 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 6.6 | 47 | 9.8 | 47 |
| 全国 | 9.7 | 69 | 7.2 | 51 | 10.4 | 49 |

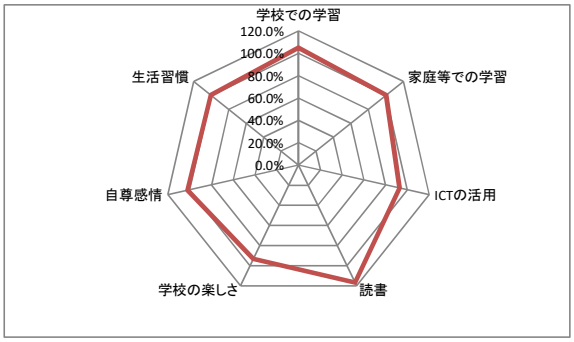
### (2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | ・無回答率は全国平均と同様に、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すこと、場面と場面，場面と描写などを結び付けて，内容を解釈することが高かった。<br>・話すこと・聞くこと、読むことについての知識を問う問題が正答率が高かった。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことや、文脈に即して漢字を正しく書く正答率が高かった、 | |
| | 努力が必要な問題 | ・聞き手の興味・関心などを考慮して，表現を工夫する表現の技法について理解することに課題がある。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | ・無回答率の傾向は、全国平均の傾向と変わらないが、割合が高い。特に事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | ・「数と式」「データの活用」領域に関しては、正答率が高かった。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・図形や関数に関しては、証明の根拠や筋道を立てて考え，事柄が成り立つ理由を説明することが課題である。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | ・全国平均を上回っている領域もあるが、粒子の考えや力の働きに関する知識及び技能に関しては正答率が低かった。<br>・無回答率が極端に高い領域があった。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | ・生物および地学領域に関しては、観測や観察の技能が身についている。 | |
| | 努力が必要な問題 | ・化学変化や状態変化に関して、身近な事象を問うことで知識及び技能を身に付けていきたい。 | |

## 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要




**質問紙調査の結果分析**

・学習活動においては、自分の思いや考えを深めたり、広げたりすることはできているが、さらに家庭においては休日等に幅広い学習の機会をもてるよう期待する。
・今年度は読書の取り組みを朝自習ににも設定したことで、読書に関して興味を持つ生徒が大幅に増やすことができた。
・友達と協力することの楽しさや、人の役に立ちたいと思う自尊感情は高いが、学校に行く楽しさには結びついていない。
・生活習慣における、スマホの使用時間についてはこれからの指導が必要である。

## 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・授業中、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫させる活動をこれからの授業でも意識して取り組んでいく。
・これまでもICTの活用においては、職員の「互見授業」で研修を行っているが、さらに全校体制で取り組めるよう研修を重ねていくとともに、内容についても検討が必要である。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎日の家庭学習を「沼ノート」として自学の取り組みを行ってはいるが、活用の仕方については今後検討が必要である。
・毎日の朝食を摂ること、家庭でのスマホやゲームに使われている時間の改善については、家庭にも呼びかけを行う必要がある。